特集　岩城橋の概要と進捗

一般県道　岩城弓削線　上島架橋

岩城橋

▲ 岩城側の工事現場

■事業の概要

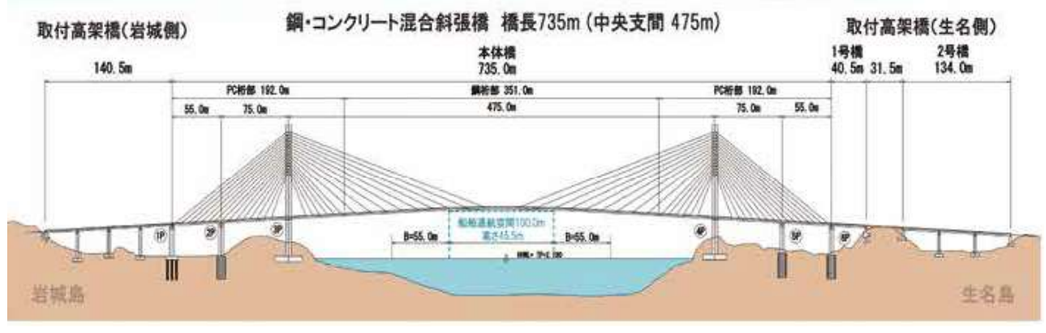
上島架橋は、全国でもまれな離島同士の合併により、平成16年10月に誕生した上島町の、生活基盤強化や産業の活性化を支援するため計画したもので、岩城島を起点に、生名島、佐島を経由し弓削島に至る県道岩城弓削線（延長約6.1㎞）の海峡部を3つの長大橋で結ぶ事業となっています。

このうち、佐島と弓削島を結ぶ「弓削大橋」が平成8年3月に開通、生名島と佐島を結ぶ「生名橋」が平成23年2月に開通し、生活道路として定着していますが、「岩城橋」の完成により上島3橋として、架橋事業本来の効果が発揮されることになります。

特に、この県道岩城弓削線は、大規模災害時には一刻を争う救命救急活動や町内4島の相互支援のためにも不可欠な道路となり、岩城橋の完成によって4島を連結する緊急輸送道路としての機能を充実させることができます。

■期待される効果

橋梁形式　5径間連続鋼・コンクリート混合斜張橋
橋　　長　L=735.0m（側径間130m+中央径間475m+側径間130m）
道路幅員　W＝5.5（7.5）m
主桁構造　鋼・コンクリート混合構造　PC 桁（2室1箱桁）鋼桁（1箱桁）
主塔構造　コンクリート製主塔（直接基礎）



▲ 生名側の工事現場

■岩城橋の特徴

景観にも配慮し、斜張橋を採用！

□斜張橋の採用

斜張橋は、高い主塔と橋桁を吊上げるケーブルが羽ばたく鳥の姿に似ており、多島海の美しい景観に溶け込む橋梁型式です。岩城橋を含め、上島架橋の3つの橋はともに斜張橋となり、上島町の島々を彩る橋梁群として、まとまりのある景観を創出します。

錆に強いコーティングで劣化を防ぐ！

□橋の長寿命化を図る工夫

一般的に行われているペンキによる塗装に比べ、錆に強いアルミニウムやマグネシウムを鉄にコーティングすることで橋の長寿命化を図ります。

定期的な点検を容易にして素早く対処！

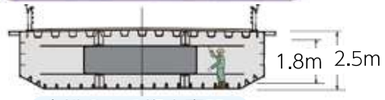
□維持管理性の向上を図る工夫

構造物を長く維持するためには、通常の家屋等と同様、日々の点検や修繕の積み重ねが重要になります。そこで、岩城橋では、橋の内部の点検・修繕がしやすいように、橋桁や主塔の内部空間を十分に確保しました。

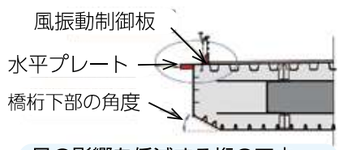
橋桁の形で風の影響をコントロール！

□風の影響を考慮した橋桁の工夫

長大橋は風が吹くと大きく揺れ、走りにくくなることもあります。このことを防ぐため、模型による実験を行い、風振動制御板や水平プレート等により、風による振動の影響が低減できるよう橋桁の形を工夫しています。



余裕のある桁内空間



風の影響を低減する桁の工夫

「愛媛県「岩城橋パンフレット」より

岩城橋の開通により、4島を周遊する観光ルートとして、サイクリストの誘致や3つの斜張橋を観光資源とした島外からの交流をさらに促進します。